

コムズ白熱教室2013



今年で4回目を迎える「コムズ白熱教室2013」。

閉塞感漂う今の日本。その中で『誇らしくまっとうに生きたい』という願いを実現するために、私たちに何ができるのか。

今回は、愛媛大学女性未来育成センターさんと共催で、各回、愛媛大学の学生さんが提題者となり、グループ討議を織り交ぜながら進めていきました。（平成25年11～12月開催）

1

ディーセント・ワークに就きたい！ ～私らしく生きるために～



提題者
愛媛大学教育学部
副島 丈義

「ディーセント・ワーク」とは“私が私らしく充実感を持てる仕事”という理解のもと、希望する働き方は？、また「働く」とことと「私らしく生きる」ことがどう関係しているのか、皆でディスカッションし、それぞれの考え方や問題点などを意見共有しました。

「働く」とは、どのようなことかという普段、意図的に避けている話題について考えることができた。（20代男性）

辛く目を背けたいテーマではあるが、今後も考えていこうと思う。（20代男性）

なりたい職業に就けなかった時、その夢を追い求め続けるのか、別の道を選ぶのかなど、人生は選択の連続なので、そこでどう頑張るかを自分なりに考えていきたいと思った。（20代女性）

2

私らしさと社会性との軋轢 1 ～オタクという視点から～



提題者
愛媛大学教育学部生
森崎 鮎美



「誇らしくまっとうに生きる」ことを『オタク』という視点から考えました。

まずは「自分が何オタクか」を話し合ったところ、

「誰しも熱中したり傾倒したりしていることがあるから、誰もが『オタク』と言えるかもしれない」という意見が出されました。その後、グループ討議では「オタクは社会にとってどのような存在なのか」についてディスカッションしました。

オタクという鏡を通して、自分自身を見つめ直すとても良い機会となった。やはり、他の人と価値観を共有することができて初めて見えてくるものもあると改めて感じた。(20代男性)

1つのことにのめり込むことが悪いのではなく、社会とのつながりを考えつつ、「自分らしく」いることの大切さがわかった。(20代女性)

グループ討議で、1つの概念やイメージを自分の中で考え直すことができた。(20代女性)

3

私らしさと社会性との軋轢 2

～腐女子という視点から～



提題者
愛媛大学教育学部生
村上 優実



まず提題者から、「腐女子」とは何か？

なぜBL（ボーイズ・ラブ）を好むのか？ その背景などについて語られました。

その中で、「男女の恋愛を描いたものには、男性が女性を守り、女性は守られるという構図が多いが、私は、そのような関係性にあまり魅力を感じず、お互いが精神的にも身体的にも経済的にも支え合う自立した関係により魅力を感じるために、そのような関係性が描写されている同性間の恋愛を扱った小説や漫画を好む」という自己分析がなされました。

グループ討議では、オープンな領域に腐女子が出てきたのはなぜか、腐女子はどこに向かいたいのかについてディスカッションしました。

※腐女子（ふじょし）－男性同士の恋愛を扱った小説や漫画などを好む女性のこと。

（ウィキペディアから引用）

自らも腐女子であるが、深く考えたことはなかった。今回、参加して、自らの感情を振り返るきっかけとなった。また自分とは異なる意見を聞くこともできよかった。（20代 女性）

「腐女子」という概念を知らなかったため、今日の講座は大きな刺激になった。他者を認めるとはということなのか、考えていこうと思う。（20代男性）

自分自身も「腐女子」という言葉や人物に対し偏見があったと思うが、そういう思いが変わった。（20代 性別不明）

4

私らしさと社会性との軋轢3

～まなざしの暴力という視点から～



提題者
愛媛大学教育学部生

梶山 直樹



今回、取り上げた人物は、永山則夫（1968年から1969年にかけて連続ピストル射殺事件を引き起こした刑死者：ウィキペディアから引用）です。

『絶望的な孤独感』を感じていたであろう永山。

- ①永山を『絶望的な孤独感』に追い込んだものは何だろうか
 - ②その『絶望的な孤独感』から抜け出すために必要なものとは何だろう
- ということをディスカッションしました。

「まなざし」は、目に見えないもので形のないものだからこそ、必要以上に肥大したり歪曲したりするのかなと思った。

また孤独について考えるいいきっかけとなった。（20代 女性）

「まなざし」とは安心と同時に、不安を与えるものであり、自分自身への「まなざし」という観点はなかった。もっと考えてみたい。

（20代 男性）

「まなざし」について考えたことはなかったが、今回、参加して、『他者に向けるまなざし』と『自分自身に向けるまなざし』について考えさせられた。

（20代 男性）

5

進路をめぐる選択と決断

～<わたし>の明日を切り拓くために～



提題者
愛媛大学教育学部生
小田 一彦

提題者から、「私たちは、『働く』ことによって、他のものといくらでも交換可能な、均質的・同質的歯車になってしまうのではないかと、そうなるとうらみの無能さ・無価値感を痛感してしまう」と、「働く」ことに対する不安が語られました。

そこで、グループ討議では、私たちは、より有用な歯車にならないと幸せになれるのか？ みずからを“only one”として本当に感じることができるか？などについてディスカッションしました。

割り切って考えていたことに、本当にそれでいいのかと問われたような気がして勉強になった。
(20代男性)

有用であることを求められることに負担を感じる一方で、自分も人に対して特に仕事や作業をする時には求めてしまうなと思い、矛盾を感じた。(20代女性)

私たちの中には「あえて考えないようにしていること」があるかなあと改めて感じた。それは私1人が考えても全体の状況が変わるわけではないし、諦念に似た部分もあったと思う。だからこそ、人と意見を共有し合い、高めていく営みの価値にまた気づけたと思う。(20代女性)

～まとめ～

各回、テーマは違えども、通底しているのは、「自分らしく生きるとはどういうことか」について考えたことでした。

その中で、浮かび上がってきたのは、「他者とのかかわり合い」「他者とのつながり」の大切さでした。

グループに分かれ意見交換し、それを全員で共有していく過程で、参加者の皆さんそれぞれに、ご自身なりの気づきが生まれたようです。

誰かに教わるのではなく、“皆で意見交換する中で気づく”

これが「コムズ白熱教室 2013」の醍醐味だったように思います。



★最後に、みんなで記念撮影！★

提題者の皆さん、そして、今回の講座を陰で支えてくださった
愛媛大学女性未来育成センター長の壽先生、大変有意義な講座となりました。
ありがとうございます！